

平成24年度[新学習指導要領]は、これまでの『ゆとり教育』、そしてその前の『詰め込み教育』を見直し、『生きる力』をテーマに、文部科学省が定めました。

久しくなる小中学校の完全週休二日制、それに伴う学習内容の3割削減、詰め込み教育の見直し、心の教育、相対評価から絶対評価への移行等々。

また、熊本県公立高校の入試制度も、平成17年度入試からのAB評定、全公立高校での前期入試と後期入試の実施を経て、平成24年度から、普通科コースを除く特色選抜と、後期入試へのシフトチェンジ、また、学区制の緩和が進み、都市化が進む大津町近辺の受験生にとっては、必然的にこれからも次第に厳しくなると予想されます。

しかし、肝心なことは合格するために、なさねばならぬことは何の変化もないということ、『努力は報われる』『自分の道は自分で拓く』といった、社会に生きるための鉄則は、変わらないということです。

高校入試のシステムは、志望者数の中から合格者を判断します。合格者には上限(定員)があり、条件(生活態度・学力・人間性)もあります。その枠に入れた者が合格者となります。

つまり、合格するためには条件を満たし、なお、その度合いが志望者数の中でも上位でなければなりません。

高校は入学者を選びます。受験生は選ばれなければ高校に行くことはできません。明らかに一般社会の原理原則なのです。

そのような現状の中、のぞみスクールでは、高校入試において最も大切なことは、一人ひとりの生徒が自分の将来と向き合い、『自分の意思で志望校を選ぶ』こと、そして、『一生懸命頑張る』こと、そして『志望校に合格する』こと、最終的に『社会に対して強く生きる』ことを育むことと考えます。

高校入試を、題材にして勉学等に励み、その過程で、怒ったり、笑ったり、泣いたり、喜んだり、励ましあったり、協力し合ったり、嫌になったり、やる気になったり……と、人が大人になるまでの過程で体感しなければならぬことが隙間なく詰まっています。

そんな意義ある高校入試を、一人ひとりの生徒が真正面から受け止めて、血肉とし、生徒たち全員が人生の勝利者となることを根本的な目標とします。

のぞみスクールでは、一人ひとりの講師が、一人ひとりの生徒が自分の力を出し惜しみせず、勉学に励むよう尽力します。また、努力を惜しみ、勉学に励まず、受講料の無駄遣いをしているようだと判断した場合、休塾もしくは退塾を勧告することもあります。